



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	おわりに(fulltext)
Author(s)	細井,宏一
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属大泉小学校, 28: 327-327
Issue Date	2017-08
URL	http://hdl.handle.net/2309/148844
Publisher	東京学芸大学附属大泉小学校
Rights	

お わ り に

副校長 細井 宏一

平成28年12月、中央教育審議会から、文部科学省へ次期学習指導要領の答申が提出された。「資質・能力を3要素（知識技能・思考力判断力表現力・学びに向かう力）で見ていくこと」、「カリキュラムマネジメント」「対話的・主体的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」などのキーワードが盛り込まれていることは、周知のことであろう。この中で、盛んに述べられていることの一つが「教科横断的な視点で目標達成のために必要な教育の内容を組織的に配列したカリキュラムマネジメント…」ということがある。次の時代、教科横断的な深い学びで、グローバル人材を育成していくことが求められていると考えられる。

本校では、6年前から研究テーマを「グローバル社会に生きる力をはぐくむ」として取り組んでいる。「グローバル・・・」という言葉は、今では全国の研究会テーマの中で散見されるようになってきているが、当時はどこにも見当たらず全国に先駆けたテーマであっただろうと自負している。これは、東京学芸大学の国際教育センターからのアドバイスで、「もう“国際”という言葉は使わない時代である…」といったアドバイスから、「異文化間教育」「グローバル教育」という新しい視点での研究に取り組んできたのである。ところがこの「グローバル人材の育成」をめざすカリキュラムを構成するとき、「軸」となるものが十分になく、その必要性を感じていた。そこで、国際バカロレア教育（IB）に注目したのである。IBには、小学校から中等教育まで見通した一貫した、世界に認定されたグローバル教育の軸があった。本校キャンパス内に隣接する本学附属国際中等教育学校がIBについての認定校となり推進していくことも影響している。

昨年度から、国際バカロレア教育（IB）のPYPの研究に着手をしはじめた。おそらく国公立の一条校の小学校で、国際バカロレア教育について研究をテーマにしているのは、全国初であろうと認識している。昨年度は、PYPとは何か、どのようなプログラムなのかを学ぶことからはじめた。ところがこのPYPを理解することは非常に困難であった。PYPに関する資料は、英語で書かれたものが多い。内容も「セントラルアイディア」「キーコンセプト」等、カタカナ言葉も多くあり、日本語に訳されたものもあるが、今一つピンとこない。カリキュラムへの考え方も、日本とは少し違うようにも思われた。手探りの研究が続いたが、本年度、幾つか実践して、PYPのよさは、教科融合型の探究学習 UOI (Unites of Inquary) が大きな特色であること、教科横断的な学びを構成し、汎用的な学力育成に有効であることがわかってきた。これは大きな成果であると感じている。

上述した次期学習指導要領答申にある「教科横断的に学ぶ」ということの一つのモデルとなれるものがここにあると感じている。UOIは、総合的な学習の時間に似ていおり、いわば、総合的な学習の「教科化」のような取組でもある。日本の学習指導要領のよさと世界水準で国際教育として認知されているPYPにもよさ、その両方のよいところ取りをして、新しい教育課程の提言やモデルをつくりあげたい。そのような志をもっているしだいである。

最後になりましたが、本年度の研究を進めるには、文部科学省大臣官房国際課前室長の庄崎美香様、同志社国際初等部コーディネーターの杉山元洋様、本学次世代教育研究推進機構の梶井芳明先生、本学附属国際中等教育学校副校長、IBアジア地区コーディネーターの星野あゆみ先生をはじめ、多くの方に多大なるご指導を賜りました。心より感謝申し上げます。

平成29年3月